

学会 彙報

(一九八八年十一月〜八九年五月)

◇山口益先生十三回忌法要並びに仏教学会公開講演会

十二月六日(火)午後四時十分

於 尋源講堂

『維摩経』を機縁として

京都大学名誉教授

長尾 雅人氏

◇研究発表例会

十二月十六日(金)午後四時十分

於 三一〇三教室

「入中論第六章にみられる Yogin の用例を巡って」

博士後期課程三回生

加藤 均氏

「維摩経と吉蔵」

教授 三桐 慈海氏

◇卒業論文・修士論文梗概発表会

一月十九日(木)午後四時

於 多目的ホール

梗概発表後、学内食堂において送別懇談会をもった。

◇新入会員歓迎会

五月二十三日(火)午後四時十分

於 多目的ホール

「仏教学との出会い」

仏教学会会長

鍵主 良敬氏

会終了後、学内食堂において新入会

員歓迎懇親会をもった。

◇人事

昇格(四月一日付)

短期大学部教授 舟橋 尚哉氏

短期大学部助教授 木村 宣彰氏

文学部助教授 吉元 信行氏

新任(四月一日付)

文学部専任講師 兵藤 一夫氏

講師(非常勤) 小林 圓照氏

講師(非常勤) 福島 慶道氏

特別研修員 片桐 惠学氏

特別研修員 高田 順仁氏

◇出版書目

長崎法潤訳『ジャータカ全集7』(上)

村勝彦との共訳 春秋社 一九八八

年十月)

ツルタイム・ケサン、小谷信千代編

『改訂版 実践チベット語文法』(文栄堂 一九八九年三月)

山口先生の十三回忌に思う

山口益先生が逝かれてはや十三年が経とうとしている。先生がお亡くなりになった年は、真宗学の泰斗金子大栄先生が逝去された年でもあった。両碩学を失った時われわれは、まさしく巨星落つという感懐を深く味わわねばならなかった。しかしその感懐と共に先生が残された学問の業績を継承し、できうべくばそれを更に発展させることを銘銘がひそかに心に誓ったはずであった。

振り返ればこの十三年の間には、校舎や講堂の建築改装が逐次完成され、様々な設備や制度も整えられた学生も教員も山口先生御存命の頃とは比較にならない程、恵まれた環境で研究ができるようになった。さてわれわれの学問はどうなっているであろうか。そのことを自らに問い姿勢を正してゆかねばならない。

(編集子)